

群 教 セ	G09 - 02
	令 4. 281集
	英語 - 中

持続可能な社会づくりに貢献することができる生徒の育成

——SDGsを見据えた学校での課題発見の支援と
発信したい内容の充実に向けた協働学習を通して——

特別研修員 矢畑 英里

I 研究テーマ設定の理由

研究協力校（以下、協力校）は、全校生徒 25 名の小規模校である。自然豊かな山村地帯で、協力的な地域の支援を受け活動しているが、地域の高齢化の進展により、地域活動の担い手の減少が続いている。学校教育目標は「郷土を愛し、知徳体の調和のとれた豊かな人間性をもつ生徒の育成」であり、郷土との結び付きを尊重した学習の展開とともに、共生社会実現に向けた人権意識高揚を図っている。

学習指導要領の前文及び総則には、教育の目的・目標として「持続可能な社会の創り手」の育成が掲げられている。国連が提唱する持続可能な開発のための教育（E S D）が目指すのも、教科等を越えた教育課程全体の取組を通じて、子供たち一人一人が、自然環境や地域の将来などを自らの課題として捉え、そうした課題の解決に向けて自分ができることを考え実践できるようにしていくことを求めているからである。協力校は、その理念を実現するユネスコスクールとして「勤労生産学習」「地域貢献活動」「人権学習」「食育」「フードドライブ」などの活動を展開している。

郷土愛や豊かな人間性を涵養する教科横断的な視点での教育課程の編成（カリキュラム・マネジメント）により、協力校の生徒は身の回りを含む社会には解決すべき課題があり、自分事として捉えることの大切さには気付いている。しかし、社会的な話題について書かれた英語の文章を読んで概要を捉えることができたとしても、「その社会問題にどのような見方で対峙したらよいのか」「捉えたことに関する自分の考えや理由を発信するにはどのような方法があるのか」について正対する機会はまだない。

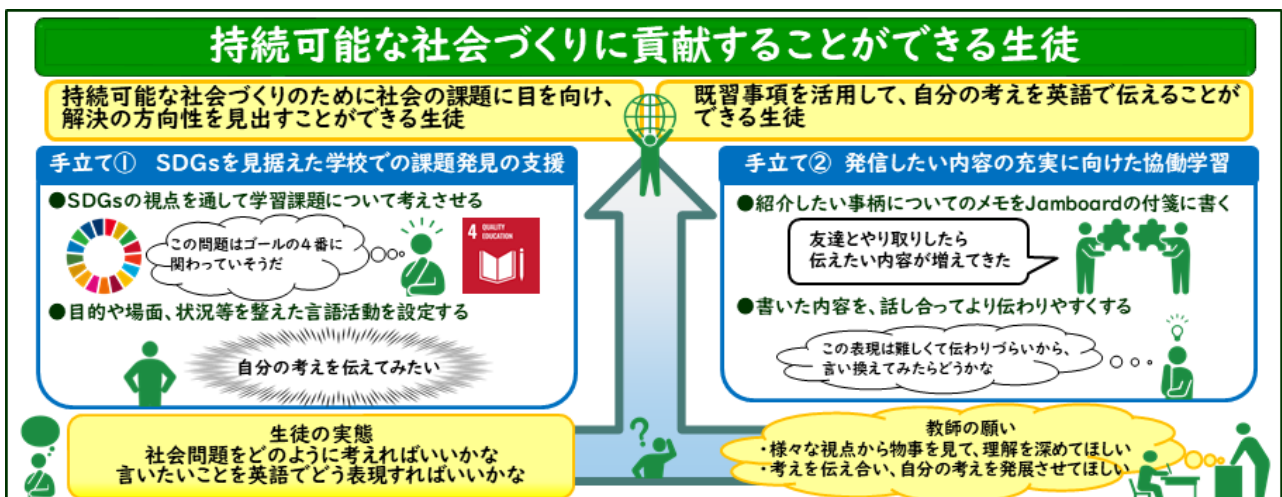
学習指導要領の記述でも、「地球規模の課題について学び、英語をツールとして国際社会と協働する方法を身に付ける」ことが肝要とされており、教科としてE S Dとの親和性が非常に高い。社会問題を自分事として捉えながら協働的に解決の方策を探って結論を発信する上で、英語を使用する目的や場面、状況が整った単元構想を行いたい。

そこで、教科書題材に対応する複数の SDGs の視点に基づき学習課題について向き合いつつ、日本語や英語で互いに考えや意見を伝え合ったり、伝え合った内容を踏まえて再構築した自分の考えなどを英語で書いたり発表したりすることができるような活動を設定する。E S Dを体現する学校の先輩として、後輩に日々の学習活動のもつ意義について継承するための分かりやすいメッセージを作成するというゴールを定める。生徒同士のやり取りで、SDGs の視点の取り上げ方、後輩が理解しやすい語彙の使い方、伝えたい内容の発展のさせ方における気付きを分析・評価し合うなど、I C Tの特性・強みを生かしながら、発信したい内容の充実に向けた協働学習を取り入れたい。生徒は英語の既習事項だけでなく、他教科等の学習で身に付けた知見を総動員し、実際に自分が作る英文に生かすことができる。

生徒が与えられた課題に受動的に取り組むのではなく、自分たちで状況を把握し、課題解決のための手立てを考え、計画的に行動することができるように働きかけ、自分には何ができるかを考え実践する力を育成する上で英語教育の果たす役割が十分あると考え、上記のとおり主題を設定した。

II 研究内容

1 研究構想図



2 授業改善に向けた手立て

持続可能な社会の実現に貢献するためには、世界にある多くの課題に目を向け、それらを自分事として考えることが大切である。また、協働的に学ぶことによって、自分が伝えたいと思う内容を充実させていくことができると考えた。そこで、以下の二つの手立てを用いる。

手立て1 SDGsを見据えた学校での課題発見の支援

SDGsの目標である17の視点と関連付けて学習課題を設定することにより、生徒は様々な課題やテーマについて理解を深め、自分事として捉えながら考えることができる。また、SDGsを見据えて目的や場面、状況等を整えた言語活動を設定し、生徒がより必要感をもって自分の考えを伝えることができるようにする。

手立て2 発信したい内容の充実に向けた協働学習の導入

Google Jamboard(デジタルインタラクティブホワイトボード)を活用して、学習課題についての情報や自分の考えなどの伝えたい内容を付箋に書かせる。生徒は、内容をより充実させるために、友達と英語でやり取りをしながら新しく得た情報や考えを別の色の付箋に書き、Google Jamboardに追加していく。付箋の色を変えることで、自分の考えの変容や、内容が充実していく様子を視覚的に捉えられるようにする。また、自分が書いたスピーチ原稿等の内容について友達と話し合わせることで、聞き手により伝わりやすくなるように言語面と内容面の再構築を図ることができるようにする。

Ⅲ 研究のまとめ

1 成果

- SDGsの目標である17の視点に基づいて、教科書題材の社会的テーマや偉業を成し遂げた人物について関連付けて学習課題を考えさせたことによって、平和、人権、環境など様々な面に目を向け、理解を深めることができた。例えば、戦争がテーマの題材では、戦争が引き起こす人権侵害や、不平等、自然環境の破壊などの様々なSDGsを阻害する要因に目を向けることができる。偉人を後輩に紹介する学習においては、紹介したい人物をSDGsの複数の視点から見ることによって人物への理解が深まった。ユネスコスクールである協力校の特色を生かした目的や場面・状況を設定したことにより、生徒は伝える必要感をもって言語活動に取り組むことができた。
- Google Jamboardの効果的な活用により友達と効率的にやり取りを行い、新たに得た情報や考えを取り入れたことで、「友達と交流して自分では考えられなかった言い回しに気付くことができた」「何度も丁寧にやり取りを繰り返す、自分の考えがしっかり言えるようになった」などの振り返りが見られ、多くの生徒が自分の考えを広げたり、深めたりすることができた。また、「SDGsに貢献した人を紹介する」活動では、後輩に伝わりやすい表現や構成にするために、聞き手の立場に立ち、友達と意見交換をしながらスピーチ原稿を再構築することができ、伝えたい内容の充実が図られた。

2 課題

- 教科書題材とSDGsの視点を結び付けて単元構想を行うことは、それ自体を目的化すると学習課題の解決を阻害することとなり、本末転倒となる。平和や環境、教育や人権などの社会的な話題を扱う単元に対し、複合的な視点で向き合う自由度は極めて高く、教師自身が研鑽を重ね、探究的な視点をもって教材研究を行うことで、教育効果が更に高まると考える。
- 学習課題に対する理解が深まり、情報や考えなどの伝えたい内容が増えてくると、使用する表現の専門性が高くなり、語彙等の難易度の調整に影響を及ぼすことがある。そのため、メッセージを受け取る立場の相手を意識して内容を分かりやすくする作業の支援にあたっては、どの既習事項をどのように活用するのかということまで配慮する必要がある。

実践例

1 単元名 「Unit 5 What Can Photos Tell? 写真で見る人物・出来事」 (第3学年・2学期)

2 本単元について

本単元は、過去に偉業を成し遂げた人物や、歴史上の主な出来事を写真とともに振り返る内容である。新たな言語材料としては関係代名詞が登場し、単元を通して人やものについて情報を加えて一文で説明することができるようになる。好きな人物やキャラクターなどについてやり取りする活動を通して、より簡潔に、より詳しく人やものを説明できるよさを感じさせながら知識や技能の定着を図る。また、紹介したい人物について友達と英語で質問し合うことで内容を充実させ、聞き手に分かりやすいスピーチにするために情報を整理したり、既習や新出の表現を駆使したりしながらまとまりのある内容で表現する力を養う。

生徒は、これまで取り組んできたSDGsの考え方を後輩へつなぐため、「後輩へSDGsに貢献した人物について紹介しよう」を単元の学習課題とし、スピーチを行う。17の目標から対応する視点を選んで人物について考えることにより、生徒はその人物の功績がSDGsの複数の視点と結びついていることを知り、その人物についての理解を深めることができると思う。生徒がSDGsの視点をもって自分の伝えたいことを考え、発信することは、持続可能な社会づくりに貢献することができる生徒の育成につながり、本単元を学習する価値は大きい。

以上のような考えから、本単元では以下のような指導計画を構想し、実践した。

目標	SDGsに貢献している人物を後輩へ紹介するために、その人物についての事実や、読んだり聞いたりしたことを整理して、自分の考えや気持ちをまとまりのある内容で話すことができる。	
評価 規 準	(1) 知識・技能 ① 関係代名詞の特徴やよさを理解している。 ② SDGsに貢献している人物について紹介するために、事実や自分の考え、気持ちなどを、簡単な語句や文を用いて伝え合う技能を身に付けている。 (2) 思考・判断・表現 SDGsに貢献している人物について紹介するために、その人物について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容を話している。 (3) 主体的に学習に取り組む態度 SDGsに貢献している人物について紹介するために、その人物について、事実や自分の考え、気持ちなどを整理し、簡単な語句や文を用いてまとまりのある内容を話そうとしている。	
過程	時間	主な学習活動
つかむ	第1時	・社会貢献した人物について、SDGsの視点を通して考えたことを書いたり伝え合ったりする。
追究する	第2時	・教科書を読み、要点や概要を捉える。 ・有名な日本人について、どのような人物で何をしたか、ペアで伝え合う。 ・人物について、情報を加えて伝え合う。
	～	・身近なものについて、どのようなものなのか、情報を加えてペアで伝え合う。 ・人物や身近なものについて、情報を加えて書いたり伝え合ったりする。
	第8時	・紹介したい人物について、調べたことをGoogle Jamboardにまとめる。
まとめる	第9時	・ペアでやり取りをし、スピーチの内容を付け足す。
	～	・グループでアドバイスし合ってスピーチの内容を再構築する。
	第11時	・後輩へ向けてスピーチをする。

3 本時及び具体化した手立てについて

本時は全11時間計画の第10時に当たる。持続可能な社会づくりに貢献することができる生徒を育成するために、以下のように手立てを具体化した。

手立て1 SDGsを見据えた学校での課題発見の支援

生徒が紹介したい人物を選び、その功績について、学校生活で慣れ親しんだSDGsの17の視点で捉えるよう促す。このことにより、その人物が貢献したゴールが複数あることに生徒が気づき、その人物に対する理解を深めることができるようにする。また、ユネスコスクールとしてSDGsの視点を大切に受け継いでもらうため、後輩に人物紹介のスピーチをするという目的や場面、状況を設定することで、生徒が伝える必要感をもって言語活動に取り組めるようにする。

手立て2 発信したい内容の充実に向けた協働学習の導入

Google Jamboardを用いて紹介したい人物について書いたスピーチの内容を、提示した視点に沿ってグループで再構築する機会を与える。ファイルを共有し、話し合いながらより分かりやすい構成や表現に書き換えたり、情報を書き足したりするよう促し、発信したい内容の充実を図る。

4 授業の実際

(1) 事前の活動（第1時～第9時）

生徒は単元の学習課題を踏まえて、自分が高い関心をもつ分野における紹介したい人物を選んだ。Google Jamboard上で「どのような人か」「SDGsにどのように関わっているか」「その人物のことを自分がどのように思っているか」について付箋に記入した（図1）。友達とその人物についてやり取りを行う度に、異なる視点から付箋の量が少しずつ増えた（図2）。人物を表す形容詞や、やり取りするための質問（図3）を共有することで、生徒はよりふさわしい表現に気付き、豊かな内容で自信をもって発話することができた。

どんな人か (プロフィール・基本情報)	SDGsにどのように関わっているか	その人のことをどう思っているか
<p>The person I want to introduce is Yoshida Shoin.</p> <p>He was a teacher who helped change Japan.</p> <p>He was born in Yamaguchi.</p>	<p>No.4 He helped with goal No.4. He built a school called 松下村塾.</p> <p>He affected a lot of young people.</p>	<p>I think he is a great person.</p> <p>Because he respected students' independence.</p>

図1 Google Jamboard（一部抜粋）



図2 やり取りの様子

Questions for the person Who is the person you want to introduce?			
Do you know him/ her?	Where is he from?	What do you think about him/ her?	Why do you respect him/her?
What did he do?	How old was he when he died?	How did he do it?	Tell me more.

図3 質問の共有（一部抜粋）

(2) 本時の活動

単元の学習課題である「SDGsに貢献している人物について後輩に紹介するために、その人物が成し遂げたことに対する自分の考え、気持ちを整理し、スピーチしよう」を踏まえて、自分のスピーチが後輩にとって分かりやすいものになっているかどうかについて、グループで発信したい内容の再構築を行った。スピーチ内容を再構築する上での視点を三つ（A:SDGs・・・人物が貢献しているゴールは他にもあるか検討する B:Rewrite・・・後輩にとって分かりやすい表現に書き換える C:Add・・・分かりやすくするために人物の情報を足す）示すことで、生徒は、視点に沿って友達と話し合いながらスピーチを再構築する活動に取り組むことができた（図4）。

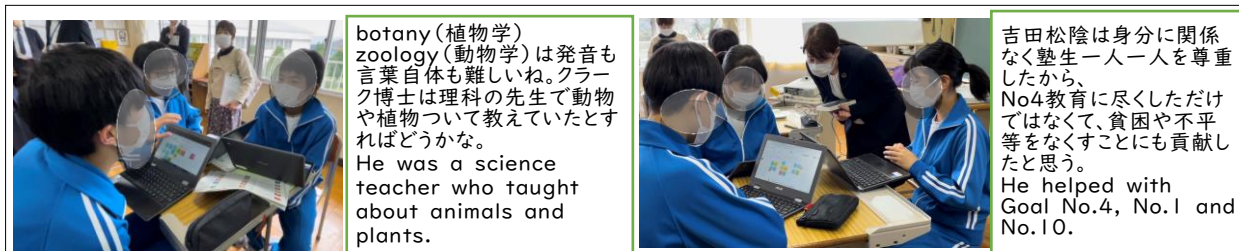


図4 やり取りによりスピーチ内容を再構築する様子

グループでスピーチ内容の再構築を行った後、個人で再考する時間を取った。友達からもらったアドバイスを基に直したスピーチをもう一度ペアで伝え合った。授業の振り返りに「より伝わりやすくするためには、文章を言い換えたり別の言葉に言い換えたりすることなど色々な工夫が必要なことに気付いた」との記述があった。しかし、「みんなでアドバイスし合う上で必要なことについて

て、事前にヒントをもらえたことで、普段できないアドバイスを友達にできたり、自分では気が付かないところに気付くことができたりした」「誰が聞いても分かりやすく、自分一人で作るよりも聞きやすいスピーチを作ることができた」と、グループで話し合うよさを感じた生徒も多く見られた（図5）。

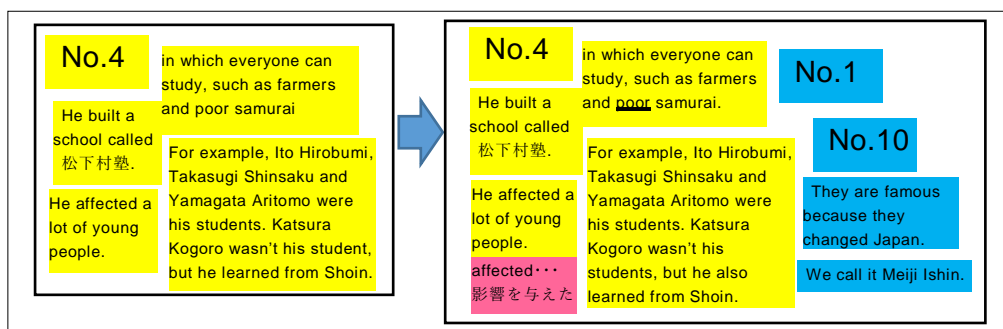


図5 授業後の変容（付箋の抜粋）

(3) 事後の活動（第11時）

後日、後輩へ向けてスピーチを行った。生徒はスライドを使って文字や写真を見せながら、スピーチを進めた（図6）。後輩は先輩のメッセージに耳を傾け、ICT端末で全員に感想を送った。「その人物は知っていたけれど、具体的に何をした人なのか初めて知った」「明治時代の偉人もSDGsに関わる活動をしてきたということが分かった」などの感想が見られた。



図6 スピーチの様子

5 考察

生徒たちはユネスコスクールとしての取組を後輩へ引き継いでいくために、「後輩へSDGsに貢献した人物について紹介しよう」を単元の学習課題とし、スピーチを行った。紹介したい人物をSDGsの多様な視点から見つめ直したことで、多くの生徒が新たな情報や考えを付箋に書き、追加していたことから、SDGsの視点と関連付けて学習課題を設定したことは、その人物をより理解する上で有効であったと考える。振り返りから「世の中をよくしようとSDGsのような考えをもつ人は、どの時代にも世界中にいるということや、そのような人がいるから実際に世界がよい方へ向かおうとしていることを伝えたい」「世界の偉人がしたように、後輩たちもSDGsについて取り組んでほしい」「SDGsに関連したモチベーションの向上につながってほしい」などの記述から、伝える必要感をもってスピーチに取り組むことができた。SDGsの視点を導入して学習課題を取り扱うことは、それらの目標との関連が明確なテーマではない場合、関連が見だしにくく、その視点を通して考えさせることが難しい側面もあるが、平和や環境、教育や人権などをテーマとした単元の中に上手く取り入れることが可能と考える。

人物に対する理解が深まると、内容が難しくなり、語彙や表現の難易度が高くなってしまうこともある。自分のスピーチが後輩にとって分かりやすいものになっているかどうかについて、グループで発信したいスピーチ内容を再構築するための視点を三つ与えた上で協働学習を取り入れたことは、「友達との添削で、より分かりやすい文章にすることができた」「自分では気が付かないところを直すことができた」「一つの事柄について伝えるとき、複数の表現を選択肢として考えることができた」という振り返りからも聞き手に分かりやすい表現を活用して表現しようとする姿につながった。単元末で「自分の知っている単語で相手に伝えようとする工夫は、スピーチを作成する上で役立った」と振り返った生徒がいることを踏まえ、これからも生徒が自分の伝えたい思いについて相手意識をもって表現することができるよう言語活動を工夫して設定したい。

※「Google Jamboard」はGoogle LLCの商標または登録商標です。